

同窓会報

同窓会長挨拶



同窓会会長 鈴木達司

同窓会員の皆様には、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃は同窓会活動に御理解、御協力をいただき厚くお礼申し上げます。さて、平成十九年度定期総会におきまして、河辺勝巳前会長の後を受け、新役員と共に同窓会の運営にあたることになりました。河辺前会長は平成十三年に鈴木守元会長から引き継がれ、本会の組織強化やオランダとの姉妹校交流の充実を図るなど、多大なる功績を残されました。また、来年三月には同窓会員も一人を超すこととなります。大役を仰せつかった責任の重さをひしひしと感じているところで、何分にも浅学非才ですが、会員皆様方の御協力を頂き、PTAとも手を携え、母校発展のために精一杯頑張りますのでよろしく申し上げます。

校長挨拶



校長 鈴木和昭

本校発展のために御尽力いただいた細井直樹校長の西尾高校へのご転出にともない、本校教頭より昇任いたしました。本校での勤務は、昭和四十九年四月から平成六年三月までの二十年間と教頭としての三年間を合わせ、今年で二十四年目を迎えます。この間、多くの人たちに大変お世話になりましたが、今後も同窓の皆様方には引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、母校の近況を報告させていただきます。まず、本年度の教職員の異動状況ですが、裏面のとおりであります。新教頭として、同窓の伴浩志先生を迎えること

発行
愛知県立渥美農業高等学校
同窓会事務局
TEL 0531-2210406
FAX 0531-2216462



同窓会の大きな事業であるオランダとの姉妹校交流も今年で十周年を迎えることができました。第十回という節目にあり、生徒達のオランダ派遣研修期間中に、河辺前同窓会長、鈴木校長、杉原前PTA会長をはじめ、同窓会員等十二名がウェラントカレッジを訪れ、交流十周年歓迎セレモニーに出席され、両校の交流をより一層深めました。これまで交流に参加された方々や御支援をいただいた皆様に心からお礼申し上げます。

学校においては、四月の教職員の定期異動により西尾高校の校長として転出された細井直樹先生には、二年間という短い期間ではありましたが、普通科出身校長という、これまでと違う視点から本校の教育に磨きをかけていただき、渥美農高が一段と輝きを増しました。そして今年、新たに鈴木和昭校長、伴浩志教頭をお迎えしました。鈴木校長は新任以来二十年、また教頭として三年間渥美農高に勤務され、伴教頭は本校同窓生でもあります。お二人とも本校を知り尽くしており、ますます本校発展のために活躍されるものと期待しております。生徒達の活躍もめざましく、生徒の発想

ができ、大変うれしく、頼もしく思っております。新転入の教職員を含め、全職員で教育目標達成のため、本校発展のために全力を尽くす所存であります。

次に生徒の活躍の様子を紹介させていただきます。部活動においては、各部ともよく頑張っています。陸上競技部東海大会出場をはじめ、卓球部の中部日本卓球選手権大会出場・野球部愛知県大会四回戦進出など好成績を残しています。農業クラブ活動でも、農業鑑定競技会や家畜審査競技会愛知県大会において最優秀を獲得しています。

四角いメロン「カクメロ」については、多くの方々のご支援をいただき、本年一月に念願の特許取得を実現いたしました。JA愛知みなみ・JA豊橋管内の農家で栽培に着手し、今夏、愛知経済連を通じて初出荷したところであり、農高生まれ・JA育ちの「カクメロ」が地域の特産品になることを願っています。また、動物科学専攻

第十回姉妹校派遣研修報告

一期日
平成十九年六月十一日(月)
六月二十二日(金)

二 派遣団員

| | | | |
|----|-------|------|-------|
| 生徒 | 施設園芸科 | 二年 | 上田 淳史 |
| | | | 河合 治樹 |
| | | | 白井 博基 |
| | | | 山田 十五 |
| | | | 金子 哲也 |
| | | | 杉原 千晶 |
| | 生活科学科 | 二年 | 戸澤 早香 |
| | 食品科学科 | 三年 | 大澤 由季 |
| | | | 富田 祐加 |
| 職員 | 白井秀典 | 小田 伸 | 市川直俊 |

三 研修日程と内容

- 六月十一日(月) オランダへ向け出発
四時十分学校に集合し、中部国際空港経由で成田空港へ。夕刻スキポール空港到着後、姉妹校職員案内でホテルへ。
- 六月十二日(火) ホームステイ
ホテルよりライスワイク校へ移動し歓迎セレモニー。午後はデルフト市内見学、フラワーアレンジメント、同窓会一行と合流し歓迎パーティ。
- 六月十三日(水) ホームステイ
午前はフロラを見学し、午後はパブリカ・キウ栽培農場見学。
- 六月十四日(木) ホームステイ
ライスワイク校にて木工細工・水質調査等のワークショップを行い、夕方ボーリングを楽しむ。
- 六月十五日(金) ホームステイ
各パートナートとそれぞれの職場(花屋、造園会社、環境調査会社、観光農園)で終日体験学習。
- 六月十六日(土) ホームステイ
終日アムステルダム市内見学。中国寺院・NAP・レンブラントの家・アンネの家・ダム広場などを見学。
- 六月十七日(日) ホームステイ
それぞれの家族と過ごす。
- 六月十八日(月) ホームステイ
午前中よりお別れパーティの準備をする。ライスワイク校にて第一回からの参加者を招いた親睦会。夕方フロラ市場にあるレストランでお別れ会。
- 六月十九日(火) ベルギー観光
ブリュッセルへバスで移動し、市内観光。(ダランプラス・小便小僧・王宮・教会等を見学)
- 六月二十日(水) ベルギー観光
ベルギー北部の町(ゲント・ブルージュ)の市内観光・ショッピング。(フランドル伯爵城他)
- 六月二十一日(木) ベルギー観光
ブルージュ市内観光。教会(ベルフォート)・馬車にて市内見学。昼食後スキポール空港へ向かい、二十時十五分発のJAL412便で成田へ。
- 六月二十二日(金) 日本到着
十二時十五分成田着。十九時五十分中部国際空港着。二十時五十分学校着。

オランダ研修に参加して

3-C 大澤 由季

私はオランダ姉妹校派遣研修に参加して本当に良かったと思います。オランダに向かう前までは、英語が上手く話せるだろう、ホストファミリーと仲良くできるだろうかなどと、心配ばかりしていました。しかし、実際にオランダの生徒たちと対面してみると、思った以上に打ち解けることができました。言葉だけでなく、表情やジェスチャーを使うことでより一層理解し合うことができました。

ホストファミリーと過ごした日々は本当に充実したもので、一週間があっという間でした。そして最後の日に、今までお世話になった気持ちを、精一杯の英語で伝えました。「ずっとここにいていいよ。」とお母さんをはじめ家族みんなに言われたときは本当に嬉しかったです。

オランダ研修を終えた今、自分自身の大きな自信になりました。十一月にはオランダの生徒たちが日本に来ます。それまでに少しでも、多くの英語を話せるようにしておきたいと思っております。



前同窓会長 河辺勝巳

同窓会員の皆様方の御理解、御支援のもと、三期六年間、会長の重責を務めさせていただきました。大過なくその任を果たしましたことを心より感謝申し上げます。今後は後任の鈴木達司会長が率いてまいります。私同様、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、渥美農高創立五十周年記念事業として、国際的視野を持った後継者育成を目的に基金を創設し、スタートしたオランダとの国際交流事業ですが、早、十年を数え、ひとつの節目を迎えることができ

ました。姉妹校提携当初のフルンネデルタカレッジも平成十三年には四つの学校が統合し、現在のウェラントカレッジと校名が変わり、オランダ最大規模の農学校になっています。この十年間で渥美農高からは百五十三名の生徒、先生、PTA、同窓会関係の方々オランダを訪問しました。一方、オランダからは二百二十名を超す生徒、職員、保護者等の方々をお迎えし、交流を深めてまいりました。農業に力点を置いた相互交流が大きな成果を上げてきたことは嬉しいかぎりです。生徒のペア学習とホームステイを基本に、お互いの国の文化や産業等について学び、それぞれの気候風土を生かした生活様式や産業のあり方などに人間の生きる力の逞しさや賢さに驚きや感動を覚えることは本当にすばらしいことです。今後、この交流事業がより長く継続され、ますます絆が強くなり、お互いの学校及び地域の発展に寄与することを期待しております。

最後の務めとして、六月十日(十六日)まで鈴木校長をはじめ、同窓会、PTAの方々と共にオランダ王国ウェラントカレッジを訪問いたしました。オランダでは、歓迎セレモニーに出席したり、理事長をはじめ学校関係者と今後の交流のあり方などについて話し合いがおこなわれたりしました。その結果、今後この姉妹校交流が益々盛んになるようお互いに努力することが確認され、大変有意義な訪問となりました。

最後に同窓会員の皆様方の御活躍を御祈念いたしますと共に、今後も変わらぬ同窓会活動への御理解と御協力をお願いし、退任の御挨拶といたします。



